

永井恒司先生、ミシガン大学同窓栄誉賞とCRSレイナーホフマン賞を受賞

日本薬学会初代会長永井恒司先生(永井記念薬学国際交流財団理事長)は、去る6月、米国ミシガン大学の卒業式において、40年前に博士研究員として留学された同大学から同窓栄誉賞(Alumni Distinguished Lifetime Achievement Award)を受賞されました。これは、同大学出身者に大学が与える大変権威ある名誉な賞で、“The purpose of this Award is to recognize graduates of the University of Michigan College of Pharmacy who have made significant lifetime contributions in their profession or to society through practice, research, education, or public service.”と定義されています。永井先生のこれまでの業績が高く評価され、190年の歴史を誇る名門大学からこのような貴重な賞を受賞されたことは大変喜ばしいことです。

またさらに、永井先生は引き続き7月には、ウィーンで開催されたCRS(Controlled Release Society)の年会で、レイナーホフマン賞(Rainer Hoffmann Product Through Science Award)を受賞されました。この賞は“The individual must be internationally recognized for outstanding contributions in the science-based development of controlled release products. Strong preference will be given to scientists whose efforts have resulted in commercialization of a controlled release product.”と定義されています。科学に基づいた応用研究に優れた業績をあげ、実用化に結びつけた研究者に授けられる賞で、これもまたたいへん名誉ある賞です。

これらの受賞を祝して、8月18日に学士会館本館において100名を超える出席者のもと盛大な祝賀会が開催されました。今回のご受賞を心よりお喜び申し上げますとともに、今後の先生の益々のご健康とご活躍を祈念する次第です。(岡田 弘晃)



ミシガン大学同窓栄誉賞授賞式
(2006)



CRSレイナー・ホフマン賞授賞式
(2006)



8月18日受賞祝賀会
(学士会館本館)

「薬剤学」第66巻6号(2006年11月刊行号)前付頁より